

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.51 2012 10/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「大阪の神さん仏さん
を歩く〈神さん編〉」

高島幸次

申し込み受付中!



昭和の、あの日。

昭和の、あの日。

「ああ、覚えてる」「私も行ったなあ」。
何かの拍子にフツと思いついた、
話題にのぼるような、

昭和の中之島を彩る名所・名場面。
教科書や歴史の本で読むようなものではなく、
自分も体験したことのある近過去の話は、
身体的にぐつと迫ってくる。
今はもう見られない当時の様子を、
写真と証言者の肉声でお届けしよう。

取材文／江口由夏
大迫力 中島淳以上本誌

市電「高麗橋」電停そば。小学生は同伴者がいないと入店不可。屋上の「お天気」サインはいろんな所から見えたという。写真提供／産経新聞社

三越「新館」が
北浜にオープン

東京本店以上に
「純度」が高い
重厚感あふれる
旦那サロン。

◎昭和8年（1933）

三越は平成17年（2005）に閉店。跡地に出来たザ・北浜プラザ（手前）と54階建てマンションのザ・北浜タワー。



「母はトイレの水洗に仰天し、蛇腹式ドアのエレベーターでは靴脱ぎそうになったと（笑）。食堂には白いティブルクロスでした」と当時、内平野町に住んでいたお好み焼き店「甚六」の土屋都さん（72）。「平岡珈琲店」店主・小川清さん（55）は愛日小学校に通っていた頃、ゆったりした1階で羽織袴姿の紳士に驚いた。

「淀川の治水翁・大橋房太郎の息子で元大阪府会議長の大橋治房さん（1896―1976）でした。こんな大人たちの場所なんだ、と」

かつて淀屋橋の住友信託銀行に勤務していた津野英男さん（70）は、関経連や住友金属工業の会長を務めた日向方齊氏（1906―93）と三越の1階でばったり。「雲の上の人でしたが、あそこではとても気さくな方でした」
ターミナルや繁華街はなくとも船場を外商のお得意様に持ち、「外商の納入業者というだけで格が上がる」と言わしめた「ザ・暖簾」も百貨店の大衆化が進んだ時代に淘汰された。けれど50代以上の人が三越を語る際の「憧憬」のような眼差しこそが、ここが人々にどんな時間をもたらしてきたかを如実に語る。前述の小川さんが父親に連れられて食堂でお子様ランチを食べた時のこと。「チキンライスには日の丸でなく、三越の旗が立っていました」

昭和の中頃まで、中之島でのボート遊びは、当たり前前の光景だった。夏ともなると中之島公園を取りまく堂島川と土佐堀川の水面には、何百隻ものボートが浮かぶ。繰り出すのは、昼休みや会社帰りのアベックたち。夏の夕涼みは、甘いささやきで満ちていた。当時大学生だった東心斎橋のバー「ザ・メロデー」店主の森本徹さん曰く「中学生や高校生が指をくわえて眺めていた」その情景は、さながら映画のワンシーン。日が落ちた後もボートの舳先にろうそくを立て、恋人のために幻想的な空間を演出していた。

そんなボート遊びを悩ませたのが、

年々深刻になる河川の水質汚染。悪臭。ただよう水辺では蚊やコウモリが飛び交い、百年の恋も冷めるかのような不気味な様相。加えて、整備によって川幅が狭くなったため、速くなった水流に翻弄されるボートが続出。水害の際の救助ツールとしての役目もあり廃止は免れたものの、水都の名物としての輝きはすっかり失われてしまった。



上空から見た昭和36年の中之島公園。橋の周辺(写真中央)に何隻ものボートが繋がれているのが確認できる。
写真提供(上・下)／産経新聞社

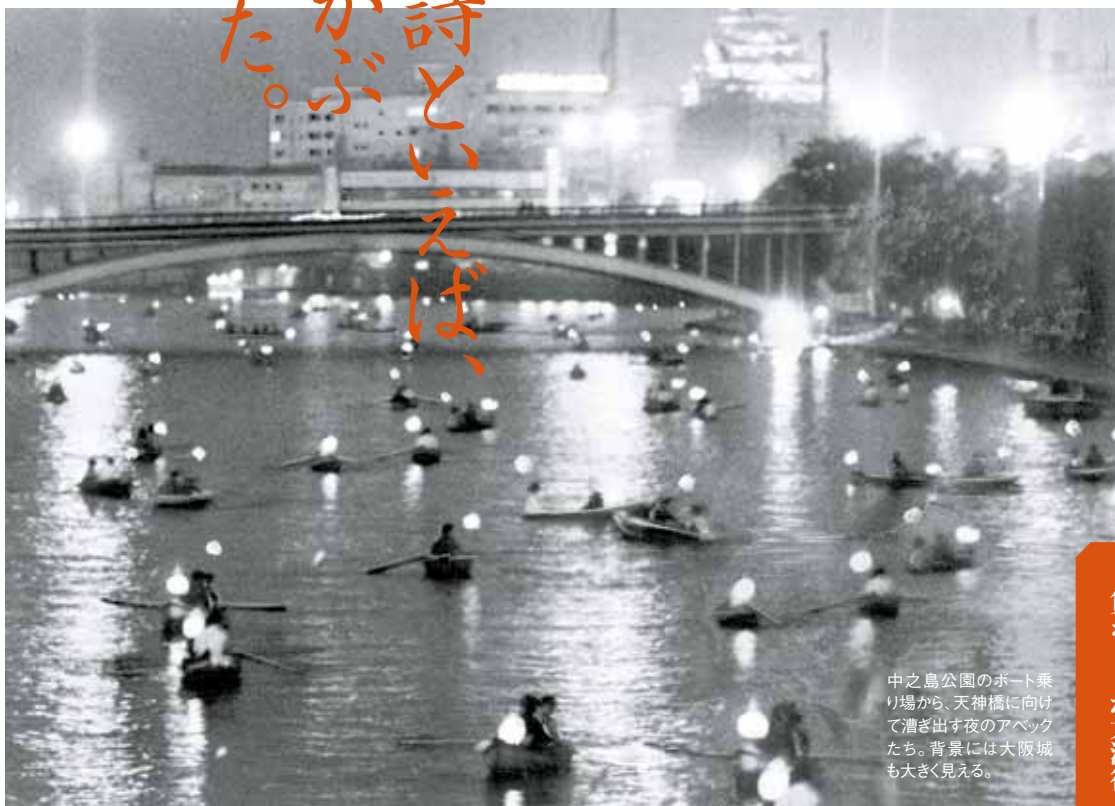
現在は水質も回復しつつあり、パドルボードに興じる人やクルーズ船で川遊びを楽しむ人たちが日々にぎわう。大阪人の水遊び好きは、今も昔も変わっていない。

◎昭和30年(1955)

中之島の 夏の風物詩といえ、 水面に浮かぶ ボートだった。



現在の中之島公園のばらぞの橋。ボートがひしめいていた岸辺は整備され、人が容易に入ることはできない。



中之島公園のボート乗り場から、天神橋に向けて漕ぎ出す夜のアベックたち。背景には大阪城も大きく見える。

貸ボートが大流行



大阪市庁舎増築がささやかれ始めた頃の豊国神社。背後には、旧市庁舎を象徴する「みおつくしの鐘」。写真提供／大阪市都市工学情報センター

◎昭和36年(1961)

島の真ん中にあった神社が消えた。

豊臣秀吉を主祭神とする豊国神社は、京都にある豊国神社の別社として、明治12年(1879)に初めて中之島に姿を現した。当初は現在の大阪市中央公会堂がある場所に創建されたが、大正元年(1912)に島内で移動。大阪府立中之島図書館と旧大阪市庁舎の間に落ち着いた。

一般に都心の神社といえ、ビルの屋上にある島居が連想されるが、この豊国神社は地上に鎮座している。かつての大阪市庁舎は、今のように図書館の方へせり出してはおらず、ふたつの



現市庁舎の横を多くの人が行き来する。そこは昔、境内で豊臣秀吉の像もあった場所。

建築物の間には「聖地」が存在するだけの余裕があったのだ。

だが昭和期に入り、大阪が発展するにつれ、持ち上がるのが市庁舎増築の案。太平洋戦争突入で白紙に戻ったかのように思えた要望は、戦後に再び注目を浴びる。議論の末の昭和36年(1961)、長らく中之島の守り神であった豊国神社は、秀吉ゆかりの地である大阪城へ遷座することとなった。

豊国神社が
大阪城へ遷座

◎昭和36年(1961)

水辺ゆえの惨事。 堂島川と土佐堀川が 一本になる。

川に囲まれた中之島は、昔から水害が多かった。ジェーン台風(昭和25年)を始めとする被害教訓を活かすべく、防潮堤のかさ上げ工事も行われたが、地盤沈下により必要な高さを確保できず、過去の台風強襲の記憶も新しいまま、再び危機は訪れた。

昭和36年(1961)、第2室戸台風上陸。防潮堤のかさ上げはすでに着手されていたものの、沈下した防潮堤を越えて島内に溢れだした水は堂島川と土佐堀川を繋ぎ、一本の大きな川をつくり出した。川沿いのビルは軒並み床上浸水に見舞われ、2階の窓から出てボートで脱出する一幕も見られた。

しかし、幸いにも被害は最小限にとどまった。特に人的被害はほとんどなかった。「防潮堤のかさ上げ工事と早めの避難のおかげで、人的な被害はジェーン台風の10分の1だったと聞いています」と西大阪治水事務所の中隆史さんは語る。その後、完成した防潮堤のおかげもあり、甚大な水害には見舞われていない。

今のガーデンブリッジ北詰あたりから。防潮堤を越えんとする水に恐怖を覚える。奥には渡辺橋が。写真提供／大阪市都市工学情報センター



第2室戸台風上陸で
中之島が浸水。

現在、国立国際美術館が建つ場所にあった、阪大理学部もこの様子。その向かいで商店を営んでいた大矢勝正さんが、写真を提供してくれた。



大阪市電が御堂筋を
走っていた時代



旧大阪市役所の前を走る市電。市役所前には「淀屋橋電停」があった。大阪市電の一部は、現在も広島市内を走る路面電車として活躍中。写真提供/産経新聞社

昭和44年(1969) 京阪電車より 100年前に 中之島を 走った 電車が あった。

中之島線が開業する100年前、明治41年(1908)に大阪市電が中之島を初めて走った。この路線は開業から5年後に開通した「第2期線」と一つに数えられ、大阪駅前から桜橋へ出て四つ橋筋を下っていく路線で、渡辺橋や肥後橋を渡った。後に、渡辺橋から東進して大江橋経由で大阪駅前へと戻る路線も開通。さらに、渡辺橋から中之島を横断し九条新道へと向かう路線ができるなど、中之島の周囲には早々と市電路線が張り巡らされた。

市電がその役目を終えたのは、昭和44年(1969)4月1日。高度成長期のモータリゼーションの波は大阪にも押し寄せ、自動車の交通量は年々増加。そんな中、大きく場所ふさぎな市電は渋滞の元凶とされたのだった。市電全廃に際して、かの松下幸之助は「さびしい気もするが、これも進歩発展の姿ではないだろうか」と、実に素直な感想を寄せている。翌年には大阪万博が迫っていた頃、大阪の「変わり目」の出来事としては実に象徴的である。



昭和44年(1969)頃に撮影された阪大病院。確かに迫力のある外観である。



昭和38年(1963)に連載が始まると同時に話題となり、反響の大きから、昭和42年に続編の連載が開始。現在は新潮文庫から全5巻で刊行。

『白い巨塔』が
2度目のテレビドラマ化

昭和53年(1978) 山崎豊子の名作は 阪大生の間でも話題に。

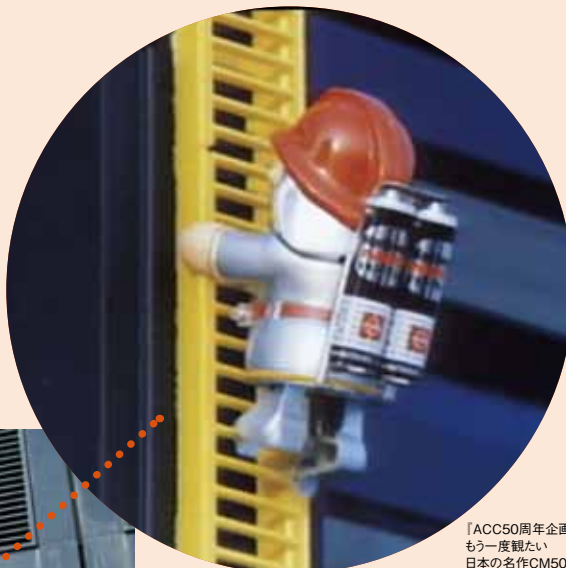
大阪大学医学部と附属病院はたびたび小説やマンガのモデルになったが、インパクトの大きさでは、やはり山崎豊子の傑作『白い巨塔』が群を抜く。正編が発表された翌年には早くも主人公・財前五郎を田宮次郎が演じて映画化されたのに続き、その翌年にはテレビドラマ化。そして昭和53年(1978)には再び田宮次郎主演でテレビドラマ化された。この背景には、映画公開後に続編が書かれたため、田宮の再演への強い希望があったという。

そのドラマを、当時阪大医学部に通いながら見ていたのが、現医学部教授の仲野徹さん。「学生同士で『白い巨塔』ごっこをやっていました。モデルになったのは誰かとか、噂し合ったりしてね」。権謀術数の限りを尽くす財前に対し、ひたすら患者に向き合う里見脩二。若き医学生たちは一様に里見脩二のような理想主義では務まらないこともわかってきて「笑」。医師の理想と現実の最高の教科書でもあったようだ。

全部実写！を追求した CM制作のサムライたち。

カチ、カチ、カチ……単三乾電池2本を背負ったおもちゃの消防士がビル壁面に取り付いた長大なハシゴ車の梯子を上り、声優・矢島正明の「ナショナル・ネオハイトップ乾電池、高層ビルに挑戦！」のナレーションが被さる。昭和58年（1983）、国内外のCM賞を総ナメにした懐かしい映像だ。

舞台は天神橋南詰の大阪大林ビル（昭和48年竣工）。ファイアーマンは高さ約120メートルのビル屋上に到達し、その瞬間ホースから放水しタバコの火をジュッと消す。再び矢島の「見たか長持ち、力持ち……。ナショナル」



「ACC50周年企画
もう一度観たい
日本の名作CM50年」
(avex)より



ここから
屋上まで
登っていったん
ですね～

昭和58年（1983）
「ナショナル・ネオハイトップ乾電池の名作CM」
おもちゃの消防士が
大林ビルを登った日。

こんなCMでした



大林ビル東側の地面からスタート。



このカットのためにビル西面でも撮影。土佐堀通と花外楼も。



伊丹に着陸するジャンボ機やビルで働くOLなども映っている。



ラストシーン。裁判所ビルと積水化学をバックに放水して消火。

当時から大林組に勤務していた（左から）平哲也さん、竹内さん、田中恵子さん。そして「中学の時にCMを観ましたが、まさかそのビルで働くとは」と東口隆司さん。

というひと言で終わる。

「全部実写です。乾電池性能の実証
広告には力を入れていて、谷川岳の岩
壁に登らせることも考えた。でもビル
の方が撮影しやすいだろうと新宿の超
高層ビルから当たっていきましたが、
どこも許可が下りない。諦めかけてい
た時に松下電器産業（現パナソニック）
の取引先である大林組さんが協力して

くれて」と当時松下の宣伝事業部員で、
1500本のCMを制作した秋吉淳一
郎氏（秋吉CMオフィス代表）は語る。

2体は吹き飛ばされた！ 高層120メートルの驚異。

おもちゃ落下のリスクを抑えるため、
撮影は日曜日に。CM制作会社ブッシ
ュマンのプロデューサー・新村洋二さ



屋上シーンは西側の風景にチェンジ。左端に中之
島センタービル、右端に大阪駅前第3ビル、遠くに
六甲山。まだ高層ビルが少なかった。

『広告批評』83年12月号の誌面。CMは映像の
インパクト大ゆえ、後に中東やインド、東南アジアで
も流れ、カンヌ国際広告祭金賞も受賞。



ん（故人）によると、元々は40センチ
の梯子をおもちゃ会社に2メートル単
位に作り直してもらい、60本つなげた。
それらを固定するために屋上からワイ
ヤーを地上まで張り、梯子の裏を通す。
それでも4体のうち2体は風で吹き飛
ばされたが、2体は屋上までたどり着
いた（『広告批評』83年12月号より）。

屋上に迫る絵は、東側・松屋町筋を
見下ろすアングルだ。「カメラマンの
平野力さんは高所恐怖症で…と言って
おられたのですが、そこはプロ。どん
どん前のめりになって」（秋吉氏）。そ
れで「秋吉さんには腰のベルトをしっ
かりつかんでもらいました」（平野氏）。
当時から大林組に勤務していた、昭
和52年（1977）入社で建設事業部
統括部長の竹内孝さんは、CM撮影が
あったことは覚えていたが、いかにせ
ん30年前の話。だが映像を再生すると、
「大塚製薬さん（オロナミンC）の看
板が見えますね」「ウチ（大林組）の
市役所一期工事が終わってる」と、一
瞬しか映らない「1983年の大阪」
を建築のプロの目で見た後で、こう付
け加えた。「黒い大林組のビルが、黄色
のハシゴと赤い帽子の引き立て役にな
ったのかもしれないね」
後日、それを聞いた秋吉さんは言っ
た。「何年後かにファイアーマンに登
るために、大林さんはわざわざあの色
でビルを建ててくれたんです（笑）」

この作品に贈られた1988年米CLIO賞パネルを
掲げるブッシュマンの渋谷一彦社長。「大林ビル
ではその後も何度か撮らせていただきました」。



今も現役の撮影技師で、「タンスにゴン」「おけいはん」などの名作も撮っ
た平野力さん。「このカットの時、これぐらい乗り出していたかな」。

◎昭和57年(1982)

名建築の60年間に及ぶ 御堂筋を挟んだ「対面」。

ちょっと古い高峰秀子
が主演した昭和25年
(1950)の「細雪」(監
督・阿部豊)でもこんな
絵から物語が始まる。
写真提供/産経新聞社



旧大阪役所と
日本銀行大阪支店の
ツーショット



市役所新館は昭和63年
(1988)にお目見え、み
おつくしの鐘も夜10時
に鳴る。花崗岩を用いた
日銀旧館は今も健在だ。

手前から、日銀大阪支店旧館(1903)、旧大阪市庁舎(1921)、中之島図書館(1904)、中央公会堂(1918)……うち3つは現存するが、真ん中で景観を締める旧市庁舎はもう存在しない。けれどこの建物、一手狭だし、巨大なクーラーを入れても冷房が効かない」(大阪市OBの友金勝

さん)と職員泣かせだった。惜しいけど。辰野金吾設計の日銀のシンボルが花崗岩と中央のドームであるのに対し、対面する旧市庁舎のそれは屋上の塔とそこに取り付けられた「みおつくしの鐘」だと言える。安全航行のための鐘ではない。昭和30年(1955)、大阪市の地域婦人団体協議会(現・地域

女性団体協議会)が募金を中心に青少年を守る愛の鐘建設運動に取り組み、毎夜10時を鐘のメロディーで知らせる「制限装置」と、母の愛を象徴する「記念鐘」が設置されたという。今以上に「青少年犯罪」が深刻だったので、鐘の神通力には相当な力があつた。「みおつくしの鐘が鳴つとるやろ？」

子どもは早よ寝なさいゆう(合図やで)言われて、テレビ消されました」(「平岡珈琲店」店主・小川清さん)。淀屋橋に勤務していた津野英男さんは「10時を過ぎて若者がウロウロしてたらダメ、という合図でしたね」。「24時間都市」という言葉が登場するのは、この旧市庁舎以後のことである。

なぜいま「海の大阪」なのか。

水都って、川沿いにおしゃれなカフェがあるだけの都市のことでしょうか？
もちろん水辺の快適な空間は大切ですが、
水都っていうのは生活や産業が海や川と密接につながった都市のこと。
そして大阪はもともと海辺の街として発展してきた都市、
そして実際の大阪は今でもちゃんと海の都市なのです。
水都大阪という言葉が定着してきつつあるなかで、
川だけではない、海の大阪を通して水都の本質に迫ります。

第1回 10/24(水) ※講座内容はP10~12をご覧ください。

「ミックスジュースは港湾ローカルフード」

ミックスジュースは、大阪のローカルフードであることはほぼ確実。
そのミックスジュースの成立過程には、港が大きな役割を果たしていたというお話。

「船旅の視点で語る海の大阪」

ご存じないかもしれないけど大阪港は日本最大のフェリーターミナル。
「もうひとつの移動手段・船」をもっと使いこなしてみませんか。

「港的風景をゆく(1) 川口—開港地と工場街」

明治の開港場・川口には現在、ハイカラさよりも町工場が立ち並ぶ重厚な雰囲気漂っています。
それもまた、この町が港であったことの証左です。

◎概要

時間／7:00PM～8:30PM 会場／淀屋橋odona2階「アイ・スポット」大阪市中央区今橋4-1-1
受講料／無料 定員／30名(当日先着順)
主催／都市大阪創生研究会ワーキンググループ
協力／ナカノシマ大学事務局
お問い合わせ／☎06-6949-1911(事務局)

◎第2回以降の予定

第2回 11/14(水)

「港的風景をゆく(2) 北恩加島—クブングワの記憶」

「海と陸の接点 内港に残るクレーン」

「ユニークな景色に出会える港」

第3回 12/7(金)

「港的風景をゆく(3) 築港—めまぐるしく変わる港湾風景」

「ひとりフェリーの楽しみ方」

「自転車であつた港湾エリアの楽しみ方」

第4回 12/26(水)

「港的風景をゆく(4) 伝説—消失景としての港」

「近世までの埋立と、治水と、生活と」

「お好み焼きは港が作った？」

第5回 2013年 1/16(水)

「港的風景をゆく(5) 北加賀屋—産業化遺産とクリエイティブ・ビレッジ」

「近代大阪の港と交通」

「船長から見た大阪港と川」

第6回 2013年 2/8(金)

「港的風景をゆく(6) 咲洲—港湾風景の現在形」

「あなたにも関係ある貿易の今」

「港に住むということ」

※上記は現在の予定です。日程は変更しませんが、内容は、講座の進展によって変更する可能性があります。

連続講座

「海の大阪」はじまる。

都市大阪創生研究会では昨年度の活動として、大阪と海の関係をもつめなおし、生活や産業のなかでの水都大阪を探検してきました。
あまり認識されていないけど大阪はやっぱり海の街なのです。だからディープな海の物語がたくさんあるところがあるのです。
そのなかからとっておきの「海の大阪」を、全6回でお伝えします。参加費は無料。多数の参加、お待ちしております。

◎平成10年にスタートした都市大阪創生研究会は、行政と民間のパートナーシップによって新しい時代に向けての都市のリノベーションを実現するため、大阪の未来とてくべき道を考える場として活動を続けています。

10 / 24 第1回「海の大阪講座」に向けて

ミックスジュースは港湾ローカルフード。

なぜ大阪で成立したか。
それが問題。

大阪の喫茶店の定番メニューであるミックスジュース。「ホット」「アイス」などと同じく、さも当然のように「ジュース」と呼ばれている。親しき仲間が、名前を呼び捨てにする感覚である。「ジュース」とオーダーしたら、「何のジュースにされますか?」と聞かれない。これは、多分、関西圏だけであろう。



このように、ミックスジュースが大阪や関西のローカルフードであることは、広く認識されている。でも、なぜそれが成立したのかを、解き明かそうとした試みは少ない。

今回は、バナナという材料に着目し、海と港湾の果たした役割と、大阪人の気質を合わせて考慮し、考えてみよう。

バナナの輸入。
これが全ての始まり。

今では輸入果物の過半を占めるバナナ。今でこそ、バナナは最も身近な果物だけど、昔から日本にあったわけではない。

最初の輸入は明治36年（1903）。日本に台湾航路の貨客船・恒春丸の船員が、台湾・基隆港から神戸港に向け、7かごのバナナを積み込み出港した。この日がバナナの商業的輸入の最初であるが、当時台湾は国内扱いだったの

で正式には「移入」と称した。昭和38年（1963）になるとバナナの輸入が自由化。以後、飛躍的に輸入が増え、ミックスジュースの材料となる。

すぐ黒くなるバナナが
甘味成分に。

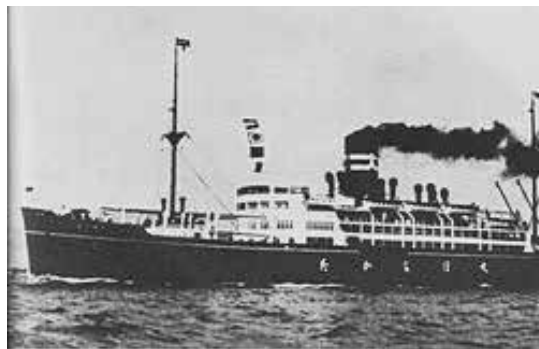
バナナは15℃から20℃が、保存に適した温度。これ以上の温度では、熟成が進みすぐに傷んでしまうし、これ以下の温度でも、低温障害を起こしてうまく熟成されない。冷蔵庫は温度が低すぎるので、家庭や喫茶店では、なかなか保存が難しい果物である。

ミックスジュースが爆発的に広まったのは1960年代以後である。それまでジュースと言えば粉末であったり、香料や甘味料入りであったりと、自然素材のものはなかったが、バナナが大量に回り始めたことで、すぐ黒くなるバナナが、ジュースの甘味成分として、最適であることが認識され、広く飲まれるようになったと考えられる。

ミックスする
アイディアはどこから?

ミックスジュースとよく似た飲み物にインドのフルーツ入りラッシー（ヨーグルトドリンク）がある。また台湾では1963年にパイヤミルクの有名店「高雄牛乳大王」が創立されている。これらのミックスして作る方法が伝わり、形を変えて広まったと考えることは、十分に可能である。

また、大阪の食は「まぜもん文化」であると言われている。その混ぜるという行為が、いつごろ確立したかはわからないが、混ぜることが前提であれば、バナナの少ない日にはミカンの缶詰を多目に入れるということができ、材料に融通が利く。これは、無駄を嫌い、始末することに価値を置く、大阪人の



戦前に台湾航路で活躍した「高千穂丸」

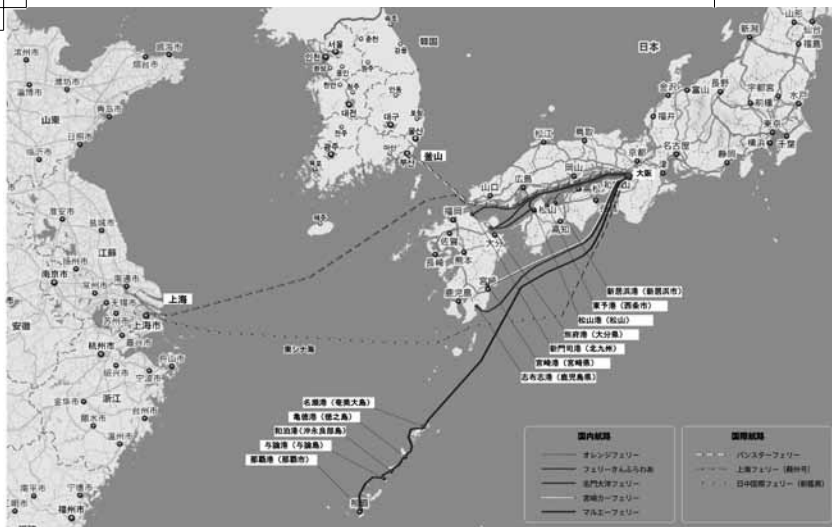
合理精神にピッタリではなからうか。
ミックスジュースは、大阪の
海の歴史が作ったと考えたい。

賢明なる読者諸兄よ、以上、ミックスジュースは大阪の港湾ローカルフードであることを、ご理解いただいたであろうか。願わくば、誇り高き大阪人として、この歴史と文化の香り高き逸話を、日々、隣人に語っていただきたい。えっ、ツッコまれるに決まっている? その時はこの決めゼリフを。
「おいしかったらエエやん」

大阪は瀬戸内海の 終着ターミナル。

大阪からのすべての船は西へ向かって出ている。中国（上海）も韓国（釜山）もざっくり真西にあることがわかる。逆にこれらの西側の国々から見ると、静かで安全な航路である瀬戸内海

船旅の視点で語る海の大阪。



大阪から出ている定期航路(2012)

移動手段としての船。
高速道路や新幹線の整備、飛行機輸送の低価格化などもあって、国内の移動は車か新幹線、海外への移動は飛行機しかイメージしにくい。船は確かに速さでは、それに太刀打ち出来ない。しかし船はその道中の風を感じ、その土地の空気を吸いながら、歩いたりすわったり、食事したりおしゃべりしながら移動できるリラックス空

のどんつきに大阪はある。瀬戸内海の終着駅。こういう視点で地図を見ると、大阪が港町であることは自然の流れだということがわかる。6世紀ごろには、現在の中央区あたりにあったとされる難波津はすでに国際港として栄えていた。しかし淀川が運ぶ土砂の堆積により港が浅くなっていたために、港の位置が徐々に沖合に移動し、中心部から離れていったことから港町としてのイメージが確立しにくかったのだろう。

が、港が整備された現在の大阪港も、歴史が物語るように日本最大のフェリーターミナルなのだ。さあここから出発してみよう。



船から見る明石海峡大橋

間でもある。当然シートベルトもない。そう考えると新幹線は速いけど味気ない乗り物だと思えてくるし、飛行機は空を飛ぶという緊張感はあるけど窮屈な乗り物だと思ったりする。

現在大阪港から行ける都市は、国内だと奄美大島、沖縄、鹿児島、宮崎、別府、門司、東予、新居浜の6航路、海外へは上海と釜山への2航路。せっかく大阪にいるのならこの恩恵を受けてみたい。

国内航路の多くは夜出発して、朝には目的地に着く。宿泊費も不要で経済的だし、時間も有効に使える。また船の楽しさ自体を存分に味わうなら瀬戸内海を昼間に通過する航路がもつおススメで、国際航路や沖縄定期航路、新居浜・東予へのオレンジフェリーなどがそれにあたる。

船旅の価値観を変える？ 新型格安クルーズツアー。

大阪港を午後3時頃に出航して翌日

大阪-釜山間を航行するパンスタードリーム号

午前10時頃に釜山港に着くパンスターフェリーは、船の楽しさを徹底的に追求したクルーズ船。夕方まで明石海峡大橋やしまなみ海道をデッキで楽しんだあと、韓国料理を食べてさまざまなエンタテインメントを楽しみ、海を見ながら入浴してゆったりと休む。朝食のあとは釜山の街の真ん中にある港に到着。というようにクルーズ船の要素がギュッとつまっている。

乗務員は船室の清掃や乗船時の乗客誘導をしたあと、売店や喫茶の担当を受け持ち、夕食時にはウェイターとして働いて、夜はエンタティナーとして舞台の上で踊る、というようにびっくりするくらいフル稼働。できるだけ安く気軽にクルーズ船を楽しんでもらおう、という意気込みがひしひしと伝わってくる。このようなクルーズ船の楽しさは他の移動手段ではありえない。今の時代だからこそ見直される船旅の可能性を示しているのかも知れない。それが可能なのは、大阪という大都市の立地条件や釜山への距離など、様々な条件が重なって成り立っているから。大阪は船旅を楽しむために本当に恵まれた街だ。路線検索には船をインプットしておこう。

10 / 24 第1回「海の大阪講座」に向けて

港的風景をゆく(1) 川口 (大阪市西区) — 開港地と工場街

海とのつながりを示す「入船」の地名。

国津橋には「入船^{いりふね}」という名の小さな食堂がある。今の店主は昭和40年(1965)から店に立つが、店自体はこの地で100年以上続いているそうだ。店の北50メートルほどの所には、安治川が流れる。この川を少し遡ると、川口という町がある。

川口は明治維新時に、海外との貿易港が開かれた町で、明治初期には外国人居留地が置かれた。大阪における文明開化の門戸であり、ホテル、クリーニング、メリヤス、スキヤキ、カフェといった言葉もここから普及したという。界隈にはほかに「入船」と名のつく店が幾つかあったそうだ。

しかしながら、川底が浅い安治川は大型船にとって不便であり、川口はやがて貿易港・居留地としての役割を神戸に譲る。界隈にはその後、学校・孤児院・病院などが営まれたが、空襲によりそれらの多くを失っている。

現在の川口界隈にはむしろ、工場街といった趣がある。東側にある立売堀には、機械問屋が集積している。そのルーツはやはり、この地が港であった

ことよっている。

小説『どてらい男』と立売堀。

花登^{はなとう}筐^{かば}の小説『どてらい男^や』。モウヤンこと山下猛造が、丁稚奉公から徴兵、復員そして再び商人と一人前になるまでを、実在の人物をモデルに描い

た物語である。

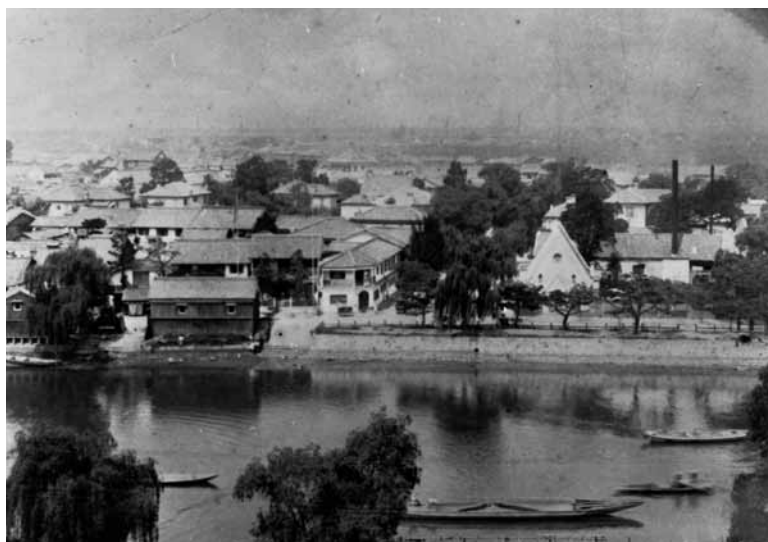
猛造はわずか18歳ながら主人の3倍の売上を上げ、立売堀の人々をアツと言わせる。丁稚であり、外交の経験がなかった彼がそれだけの成果を上げた背景には、ガンバリだけでなく、それまで主人が扱わなかった国産品を

扱い始めたという事情があった。

江戸時代には木材問屋の町であった立売堀は、日露戦争の頃には金物問屋街へと変わっていった。これは戦争により鉄鋼需要が増加し、船で輸送されてきた重量物が、立売堀で陸揚げされたことによる。満州事変以後には輸入が制限されたことで、国産品が求められることになったが、このことで、立売堀の機械問屋は生産を請け負ってくれるメーカーを必要とするようになった。

鉄鋼・機械工具は重量物なので、輸送距離は短いほうが望ましい。こういう理由から、川口から九条界隈には、ねじ、バルブなどを製作する工場が立ち並ぶようになったと思われる。

「入船食堂」がある国津橋界隈にも、金属加工の工場が連なる。お店の常連客は職工さんを中心で、テレビを観ながら黙々と食事をする人たちも多い。店主はそんな常連さんに気軽に声をかけ、店内には和気あいあいとした雰囲気漂っている。



戦前の川口居留地(写真提供／大阪市西区役所)



主催／朝日新聞社



哲学者
鷺田清一さんの
対談シリーズ③

言葉ほぐし

哲学者で大谷大学教授の
鷺田清一さんをホスト役に、
芸能、スポーツ、ジャーナリズムなど
様々な分野で活躍する
関西ゆかりの女性たちを
お招きします。



HAZUKI SAISHOU

ノンフィクションライター。1963年生まれ。関西学院大学卒。広告会社勤務などを
経験。「絶対音感」で小学館ノンフィクション大賞(1997年)、2007年に「星新一
〇〇〇話をつくった人」で大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞、日本推理作
家協会賞など受賞。ほかに「東京大学応援部物語」「青いバラ」など、対象は多岐
にわたり、科学技術と人間の関係性、スポーツなどもテーマに執筆活動を展開。

第3回ゲスト 最相葉月さん(ノンフィクションライター)

テーマ「わかる」ということ

未来が見えない、不透明な時代を
生きる私たち。さまざまな環境の変
化の中、ともすればこころがくじけ
そうになりがちです。対談では、二
人の対話から「気になる言葉」「ひっ
かかる言葉」をとりあげます。その
「言葉」をほぐすことで時代をほぐ
し、困難を乗り越えていく明日の元
気につなげていきたいと思ひます。

シリーズ3回目のゲストはノンフ
ィクションライター最相葉月さん。
テーマは、「わかる」ということ。
神戸育ちの最相さんは阪神淡路大震
災を経験され、いま東日本大震災の
取材にも取り組んでおられます。被
災者への心のケアを通じて、苦悩に
寄り添うこと、「わかる」ということ
について語り合ってくださいます。

定員
200名
(無料)

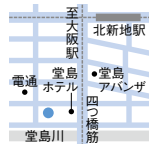
日時 2012年10月27日(土)

開場 16:30

開演 17:00(終了予定19:00)

※会場へは聴講券をご持参ください。

場所 中央電気倶楽部(大阪市北区堂島浜2丁目1-25)



申し込み方法

参加ご希望の方は、名前(1枚に1人)、郵便番号、住所、年
齢、電話番号を記入し、はがき(〒530-8211(住所不要))か、
メール(sq-sybox@asahi.com)で、朝日新聞社関西スクエア
「対談シリーズ・言葉ほぐし③」係へ
[10月12日(金) 必着]

※応募多数の場合は抽選し、聴講券の発送で発表にかえさ
せていただきます。

※お寄せいただいた個人情報は聴講券の発送のみに使用さ
せていただきます。

◎お問い合わせ／朝日新聞朝日21関西スクエア

☎06-6201-8450(平日10時～17時)

●これまでの「言葉ほぐし」



第1回(2012年5月26日)

麻生祐未さん(女優)

テーマ「演じ分ける」

NHKの朝の連続テレビ小説「カーネーショ
ン」で、主人公の母親役を演じた女優の麻生
祐未さんが初回のゲスト。ドラマのお話はもち
ろん、様々な役割を演じなければいけない女
優という仕事の難しさややりがいといったこ
ろから、私たちが日常生活の中で求められる
多くの役割の大切さについても語られました。



第2回(2012年6月15日)

増田明美さん(スポーツジャーナリスト)

テーマ「がまん」

ロス五輪切符を手にしたのも、引退レースと
なったのも大阪国際女子マラソンと、大阪の
地と縁深い増田さん。「ジェットコースターみ
たい」と鷺田さんが評した増田さんの人生をふり
返りながら、現代の若者へ向けられるまなざし
や、教育について、ロンドン五輪の見方など
についても話題は展開していきました。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2012年11月講座

「大阪の神さん仏さんを歩く〈神さん編〉 大阪天満宮 七不思議ツアー」

講師／高島幸次（大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所）

『大阪の神さん仏さん』をもっとよく知るために、
高島先生と一緒に大阪天満宮を歩こう！



先生と天満天神御伽
衆のみなさんに「ガ
イド役。となっても
らうツアーを計画。
著者のお一人である
高島先生が大阪天満
宮に伝わるという境
内の「七不思議」を

ナカノシマ大学の講義をもとに出版さ
れた『大阪の神さん仏さん』。住吉大社、
大阪天満宮、四天王寺といった大阪を代
表する寺社のあり方を考えるところから、
大阪の人や街のキャラクターを解き明か
している。神道や仏教の基本的な知識や

天神祭に代表される祭りの構造など、な
かなか専門的なテーマでも読みやすいの
は、釈徹宗先生・高島幸次先生お二人の
語り上手ゆえだろう。

そこで今回は、本書の内容をさらによ
く理解してもらえるように、著者の高島

ご案内。いつもの講義にプラスして、実
際に歩いて目で見ることで、『大阪の神
さん仏さん』の面白さがよりリアルに感
じられるはず。もう読んだ人なら「なる
ほど」とうなずく、まだの人には新鮮な
驚きのあるツアーになること間違いなし。

大阪天満宮の
歴史と謎を学ぶ

◎今月の授業

【神さん】



「これから買おうかな…」
という人にオススメ。
お得な本付きチケット
(2,500円)も発売します！

今回のツアー受講時
に『大阪の神さん仏さん』
(1,500円)を買いたいとい
う人のために、本と受講
料がセットになったチケッ
トを2,500円で発売。つまり、
ツアー受講料が通常の半
額となり、お得です！



募集要項	「大阪の神さん仏さんを歩く〈神さん編〉 大阪天満宮 七不思議ツアー」 日時／11月25日(日) 1:00PM～3:00PM(開場0:30PM～) 会場／大阪天満宮 梅香学院 受講料／2,000円(本付きチケットは2,500円) 定員／50名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪21世紀協会	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学11月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
------	--	---

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

大阪について
語り尽くします!

◎秋の特別集中講義

【中沢新一「大阪論」】



待ちに待った『大阪アースダイバー』、ついに刊行。
中沢先生の集中講義が聴けるのは、ナカノシマ大学だけ!

人類学者の中沢新一氏が取材に5年、執筆に2年をかけた労作『大阪アースダイバー』が、今月ついに刊行される。中沢氏はこれまでに何度もナカノシマ大学に登場しているが、今回は完成した新刊

をひっさげて来阪。大阪について徹底的に語るまたとない機会となる。地形・地図・食・文学・コミュニケーション…中沢氏にとっても初となる、大阪論の集中講義をお聞き逃しなく!

『大阪アースダイバー』
(講談社・1,995円)

古代の地形から都市に秘められた歴史を読み解く「アースダイバー」の大阪編。上町台地を南北に貫くアポロン軸と、生駒山と大阪湾を結ぶ東西の線であるディオニュソス軸の解説から始まり、時間・空間を鮮やかに飛び越えて展開する語り口は痛快。大阪で生活する人にとっての必読の書と言える。

◎時間割

第1日 10月13日(土) I「俯瞰する大阪」 大阪の「原理」を形づくっているものとは。地形、聖地、古墳などから、まずは大阪を一望俯瞰する。 時間／7:00PM～8:30PM 会場／中央電気倶楽部 定員／250名	第2日 10月14日(日) II「大阪文学に潜むもの」 織田作之助、谷崎潤一郎、今東光ら大阪文学の代表する作家たちの文章に通底する、大阪らしさとは何か? 時間／第1部(II) 1:00PM～2:30PM 第2部(III) 3:00PM～4:30PM ※途中休憩あり 会場／追手門学院 大阪城スクエア 定員／300名	III「海民がつくった都市」 現代の大阪人のルーツである「海民」とは、どんな人たちなのか? どのように今の私たちと結びつくのか?
---	---	--

受講料／2日通し:3,500円 1日目のみ:2,000円 2日目のみ:2,500円

お申し込み方法／①インターネットからのお申し込み ナカノシマ大学ウェブサイトの案内にしたがって、チケット購入サイト「e+」(イープラス)にてチケットをお買い求めください。<http://nakanoshima-univ.com/> ②郵便振替でのお申し込み 下記の口座番号にご入金ください。ご入金が確認でき次第、チケットをお送りします。なお、入金通知が届くまでに1週間ほどかかる場合があります。お電話で事前に確認していただくことをおすすめします。口座番号:00990-5-299267 加入者名:カ)イチヨシマルビー
※ご注意 こちらの講座は、受講料前払い制です。受講料をお支払いいただいた時点で申し込みが完了します。電話、ファックス、ハガキでの受付は致しません。ご了承ください。

トウニン月報

2012年10月1日発行

すっかりおなじみの行事となった感のある「Nakanoshima-style.com フォトコンテスト」。

7回目を迎える今回は、「やすらぎのまち 中之島」がテーマとなっている。ビルが立ち並び、高速道路が頭上を走る大阪のど真ん中において、水と緑に囲まれた中之島は、ほっと安心した気分になれる貴重なエリア。多くの人や車が

き交う都会の日常を忘れてのんびりした気分になれる作品を撮って、応募してみよう。

ちなみに、左の写真は昨年のコンテストの最優秀賞に選ばれた作品。中之島の東端の剣先公園にある噴水から飛び出した水が、ライトアップの光を浴びて輝く写真で、テーマである「水辺のまち 中之島」

を十分に表現している。

応募作品はNakanoshima-style.comのページに掲載されるほか、最優秀賞に選ばれた人には、11月に新しく開業する中之島フェスティバルタワーの最上階にオープンするレストラン「ラ・フェット ひらまつ」のペア食事券、優秀賞には「落語家と行く」なわ探検クルーズ」ペアチケットが進呈されるなど、豪華な賞品も魅力的だ。(大迫力・本誌)

中之島の心安らぐ風景を撮ってコンテストに応募しよう！



信さん「ライト、放水、見物人」(テーマ「水辺のまち 中之島」)

第7回 Nakanoshima-style.com フォトコンテスト

応募期間／9月28日(金)～11月25日(日)

応募方法／デジタルカメラ、携帯電話などで「やすらぎのまち 中之島」を感じる風景を撮影し、下記メールアドレス宛に写真データを添付して送信(※応募は一人につき5点まで)。

送信の際は、写真のテーマ、撮影場所(簡単に)、名前(ニックネーム可)、

賞品の送り先(郵便番号、住所、氏名、電話番号)を明記。

データ送付先／oubo@nakanoshima-style.com

◎写真データについての注意

・携帯電話メールから応募可能 ・ファイル形式 JPEG、GIF等

・ファイルサイズ 2MBまで ・郵送での応募は不可



(応募用QRコード)

「水都大阪フェス」ならでは水辺プログラム！



大阪を表す代名詞となった「水都」。とりわけ川に囲まれた中之島は、水辺との付き合い方を最も意識できる場所だ。今年も開催される「水都大阪フェス」では、中之島をはじめ大阪のあちこちで、水辺を最大限に楽しめるプログラムが一挙展開される。

水都らしさを体験してもらおうと、中之島公園をメインに用意されているのは「水辺ピクニック」。持ち込んだ食べ物や飲み物をお供に、芝生の上でおしゃべりしながら自由にくつろげるもの。期間中はいつでも参加でき、会場ではラグなどのグッズもレンタル可能なので、気軽に立ち寄れるところが嬉しい。また、初

「水都大阪フェス2012 水辺のまちあそび」

期間／10月13日(土)～10月21日(日)

会場／中之島公園など 時間／10:00AM～9:00PM

料金／水辺ピクニック：参加無料

大阪水辺バル：当日3,500円 前売り3,200円(1冊5枚綴り)

(1ドリンク+1フード、乗船券兼用)、前売りチケット予約購入は

<http://osaka-mizubebat2012.seesaa.net/>より

大阪まちあるきCUP <http://www.tabimegane.com/osakacup/>

問い合わせ／☎06-6282-5902

※プログラムにより会場・日程・参加費などは異なります。

<http://www.osaka-info.jp/suito2012/>

日と2日目のお楽しみ、昨年も好評だった「大阪水辺バル」は、天満橋や福島、ミナミ、北浜、中央卸売市場前など10ヶ所の船着場間を舟でめぐり、それぞれのエリアを代表するお店自慢のバルメニューを味わえる。水辺をダイレクトに感じながら美味しいものまで食べられる、まさに一石二鳥のプログラムだ。

他にも30ものコースから選んで自分の足でまちをめぐる「大阪まちあるきCUP」や、開催初年から展示されて大人気だった巨大な黄色のアヒル、「ラバー・ダック」が満を持して今回も登場。秋の水辺は大にぎわいの気配だ。(江口由夏・本誌)

神さん・仏さんコンピが 追手門寄席に登場



桂春之輔

毎回、新旧の大坂弁の違いに注目したり、医者と看護師を題材にしたネタばかりを集めたり、切り口のユニークさで人気の「追手門寄席」その

第4回は、「地獄にオチないための落語会」と、お題からしてニヤリとしてしまう。今回、寄席でかけられるのは文字とおり「あの世」をテーマにしたネタばかり。桂枝三郎「地獄八景」、桂歌之助「骨つり」、そして桂春之輔「死ぬなら今」と、古典3本が楽しめる。島民およびナカノシマ大学



第4回 追手門寄席
「地獄にオチないための落語会」
第一部(落語)6:30PM~7:40PM
第二部(鼎談)7:50PM~8:30PM
釈徹宗×高島幸次×桂春之輔
日時/11月2日(金)6:30PM~
会場/追手門学院大阪城スクエア
木戸銭/1,500円
申し込み・問い合わせ/
追手門学院大阪城スクエア
☎06-6942-2788

ファンにとって嬉しいのは、『大阪の神さん仏さん』の釈徹宗&高島幸次のお二人が、後半のトークに登場するところだろう。常々、神道や仏教の考え方を理解するのに落語はぴったりだと唱えているお二人だけに、そのゆえんがたっぷりと語られることだろう。(大迫力・本誌)



ベンギン夫婦の作りかた
10月20日ユナイテッドシネマ岸和田、テアトル梅田ほかにて公開 ©2012「ベンギン夫婦の作りかた」製作委員会



eatrip ©2009スタイルジャム



しあわせのパン ©2011「しあわせのパン」製作委員会

「べんじん」が魅力的な映画を集めて上映する、「第1回 大阪中之島ごはん映画祭」が梅田ガーデンシネマをメイン会場に開かれる。これは、「食」を描いた映画に焦点を当て、人と食のつながりから「生きること」を読み取ってもらおうという試み。東京で3回目の開催を迎えるにあたり、今年は大阪にも登場することに

なったイベントだ。観れば思わずごはんを食べたくなる映画のラインアップは、洋画から邦画、ドキュメンタリーまでジャンル豊かな

16作品。フィンランドの日本人食堂『かもめ食堂』のおにぎりや、『しあわせのパン』でカフェを営む若夫婦の手づく

では、作品をイメージした音楽やごはんを同時に楽しめる上映会も開催。詳しくは公式HPを確認してほしい。また今回はプレミア招待作品として、国際結婚した夫婦が「食べるラー油」開発に試行錯誤する新作映画『ベンギン夫婦の作りかた』が特別公開される。(本誌・江口由夏)

第1回 大阪中之島ごはん映画祭
期間/10月6日(土)~14日(日)
会場/梅田ガーデンシネマほか
料金/前売1回券 1,200円
3回券 3,000円
プレミア招待作品観覧券 1,200円
問い合わせ/大阪中之島ごはん映画祭事務局
☎06-6348-9990
※タイムテーブル、サテライト会場など
詳しくは<http://osaka-nakanoshimagohan.com>



北大江たそがれコンサートweek 2012
期間/10月14日(日)~10月20日(土)
日程・会場/14日(日)2:00PM~カフェ・マリアン(500円・ドリンク付き)、
19日(金)5:45PM~北大江公園(入場無料・雨天中止)ほか
問い合わせ/北大江地区たそがれコンサート
実行委員会☎06-6942-2261
●日程により会場や料金は異なるので、
詳細は<http://kitaooe.cocolog-nifty.com/>にて
(※公園コンサート以外は全プログラム要予約)

なまじのある童謡ありジャズあり、クラシックありの幅広い層に向けた選曲が親しみと呼んでいるが、音楽家が集う街とあって演奏は本格的。北大江公園での野外コンサートでは、トランペット四重奏や野外では珍しい2台のハーブ演奏が披露され、楽器の街ならではのハーモニーが期待できそう。(江口由夏・本誌)

秋の夜長にぴったりな 楽器の街のコンサート



すっかり秋の風物詩となった「北大江たそがれコンサートweek」が、今年も北大江エリアにて開催される。天満橋駅南西にある北大江公園周辺のエリアは、バイオリンやアコーディオンといった楽器工房や音楽家が多い楽器の街で、天満村の愛称も。2006年の北大江公園の改修をきっかけに開かれた手づくりコンサートが話題になり、開催7回目の今年もメイン会場となる北大江公園を中心に様々な店舗が参加し、7会場18プログラムを予定する充実のイベントへと成長。初日に行われるオーブニング音楽会を皮切りに、天満村の至るところで7日間の日替わりコンサートが行われる。

祝祭に包まれて

—わたしのフェスティバルホール

取材・文／松本 創（本誌）

楽屋前の通路から
舞台袖への扉をくぐ
る、その手前の空間を
「出待」と呼ぶ。すべて
が新調され、再出発へ
の期待と喜びに輝くフェ
スティバルホールの中
にあって、その部分の床だ
けは、使い古した木材のザ
ラリとした質感をたたえて
いる。木目が模様を描く表面
には無数の小さな傷――。

2008年末に閉館した旧ホ
ールの舞台から切り出した床である。今
では貴重なヒノキの無垢材。この上で、
開館から50年の間に2度貼り替えられ
表面も削られたが、1万5000回を
超す公演が行われた、あの舞台上の空
気を静かに物語る。

ホールスタッフが言う。

「半世紀の間にフェスティバルホ
ールの舞台を踏んだアーティストたちの
思いが、この床に染み込んでいる気が
する。だから新ホールにも一部をぜひ
残そうという話になったんです」

来年4月に新ホールが完成すれば、
すべての出演者はここに堆積した「祝
祭」の記憶を踏みしめて、
舞台へ向かうことになる。

中之島に旧フェスティバ
ルホールが開館したのは昭
和33年（1958）4月3



右／シートや床は赤で統一。赤はフェスの
シンボルカラーに。下／第1回大阪国際芸
術祭のニューヨークシティバレエによる群
舞。左／同時開業した旧フェスティバルホ
ールのあった新朝日ビルディングのテープカットに
臨む村山藤子朝日ビルディング社長（当時）。



序章

1958年、 中之島から伝説は始まった。



日のこと。設備、規模、デザイン、ど
れを取ってもヨーロッパの水準に匹敵
する、東洋初の本格的なコンサートホ
ールだった。披露式典では、朝比奈隆
が指揮する関西交響楽団（のちの大阪
フィルハーモニー交響楽団）がベート
ーヴェンの「献堂式序曲」で祝福した。
その1週間後、「第1回大阪国際芸
術祭」が始まり、ニューヨーク・シテ
イ・バレエが幕開けを飾った。芸術祭
は翌年から「大阪国際フェスティバル」
と名称を変え、以後、数々の伝説的名
演を生み出していく。

「東京にはまだホールらしいホール

はなかった。私たち東京勢が、このホ
ールにはじめて来た時、どんなに羨ま
しく思い、大阪の底力にいまさらなが
ら感心したことか」

今年5月に亡くなった音楽評論家の
草分け、吉田秀和はそんな言葉を遺し
ている。終戦からわずか13年。大阪の
文化的土壌がいかに豊かであったか。
それを支える経済がいかに隆盛だった
か。感傷とともに思いをはせる。

フェスティバルホールは誕生以来変
わらず、音楽と舞台芸術を育み続けた。
クラシックばかりではない。オペラ、バ
レエ、ポップス、ミュージカル、能など。



2013年4月 オープン!

festival hall

www.festivalhall.jp/

提供／株式会社 朝日ビルディング

日本の音楽史の背景に、いつも深紅に
染まった空間があり、中之島があった。
「父なる劇場、母なるステージ」「神
様が造ったホール」「私を育ててくれ
た場所」。建て替えに際して、さ
まざまな芸術家たちが最大級の謝辞を
贈った。もちろん、その子供たち
は音楽家にとどまらない。リスナーが
育ち、興行会社が育ち、放送局やレコ
ード会社が育った。

「ホールというのは、良い公演を積
み重ねること、どんな格が上がつ
ていくんです。一流が一流を呼ぶ。フ
エスはまさにそうでした」

と語るのは鈴木貞治さん
（66）。少年時代から何度あ
あの客席に通ったかしれな
い。長じてホール運営に携
わり、現在は大阪フィルハーモニー交
響楽団の事務局長を務める。

フェスティバルホールに深く関わり、
育った人たちの思いをこの連載で訪ね
歩いてみたい。まずは鈴木さんの話か
ら。

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



- ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

11月28日の中之島フェスティバルタワーの開業まで、あとわずか。
「こんな中之島、見たことない!」の数々をオープンより一足先にご紹介しよう。

●『月刊島民』vol.52は2012年11月1日発行です！

12/09/22 6:37



つまり、楽しめばいい、ってことかも。

リチャード・ロング《京都の泥の円》1999年
京都国立近代美術館
桶井けい子(大学生)

この秋、アートな おけいはん

芸術って難しそう…なんて気後れしてちゃ、
もったいない！京阪沿線にずらりと揃う名美術館や
博物館は、この秋、見逃せない展覧会がいっぱい。
まずは気楽に出かけましょ。



【国立国際美術館】
渡辺橋駅下車 徒歩約5分



【大阪市立東洋陶磁美術館】
なにわ橋駅下車すぐ
淀屋橋駅または
北浜駅下車 徒歩約5分



【大阪歴史博物館】
天満橋駅のりかえ
地下鉄谷町四丁目駅
下車すぐ



【京都市美術館】
神宮丸太町駅下車
徒歩約20分または地下鉄
東山駅下車 徒歩約10分



【京都国立近代美術館】
神宮丸太町駅下車
徒歩約20分または地下鉄
東山駅下車 徒歩約10分



【京都文化博物館】
三条駅下車 徒歩約15分
または地下鉄烏丸御池駅
下車 徒歩約5分



【京都国立博物館】
七条駅下車 徒歩約5分



【京都国際マンガミュージアム】
三条駅下車 徒歩約20分
または地下鉄
烏丸御池駅下車すぐ

お
け
い
は
ん

※ 詳しくは、ホームページまたは京阪電車主要駅でチラシをご覧ください。

www.okeihan.net